

# 佛心



## 報恩講

今年の一月二十日、トロント仏教会では報恩講の法要が勤修されました。報恩講とは浄土真宗の宗祖である親鸞聖人のご恩をしのび、そのご苦勞を通じて、阿弥陀如来のお救いをあらためて心に深く味わわせていただく法要です。親鸞聖人は弘長二年（一一六二年）の一月十六日に御往生され、その御命日法要となる報恩講法要は、浄土真宗の僧侶・門徒において年中行事の中でも最も重要な法要であります。そしてこの度、トロント仏教会で報恩講法要のお取り次ぎをさせていただけたこと深く喜び申し上げます。

一月、それは年はじめの月であり、様々なことを切り替えさせ一新させる機会にもなりえます。そして私はこの度の報恩講の機会をご縁として、親鸞聖人の歩まれたお念仏の仏道に改めて感謝と尊敬の念を抱かせていただきました。それは私だけではなく、親鸞聖人のみ教えを受け継いでいる世界中の浄土真宗のお寺でこの報恩講を通して多くの方々が聖人の御出世のご恩に手を合わされたことでしょう。

親鸞聖人は承安三年（一一七三年）、貴族から武家による統治へと政權が移り、政治・経済・社会の劇的な変化が起こるさなかにご誕生されました。その怒濤の時代を過ごしていく中で、人々の苦しみを鋭く感じると同時にこの無常の世の中をありありと眼前にされたことだと思われます。聖人は養和元年（一一八一年）の春、伯父の範綱に付き添われて比叡山で得度式を受けて出家されました。数え年九歳のことでした。

しかしその得度式で剃髪を受けるさい、時はすでに夕方になっており、式を執り行う慈鎮慈鎮和尚は「今日はすでに遅く暗いため明日また来なさい」と申した。しかし聖人はそこで「明日ありと 思ふ心の仇桜 夜半に嵐の 吹かぬものかは」と詩を述べられたと言ひ伝えられています。この詩は、明日というものが必ず来ると錯覚している私たちの無明と世の中の無常の真理をありありと表しています。そしてこの詩をうけて慈鎮和尚は、聖人の剃髪と得度式をその日に執り行われました。一日も無駄にできない、それぐらい聖人は仏道への熱意を抱いていたのでしよう。それから二十年の間、比叡山での大変厳しい修行を積まれていきました。しかし、修行を重ねれば重ねるほど自身の罪悪深重の姿が見え、そのことにまた苦悩を抱き、とうとう自力修行にも限界を感じはめました。

そこで親鸞聖人二十九歳のとき、長年修行を積んだ比叡山を下し京都にある六角堂という寺院で百日間の参籠する修行を行われました。その九五日目、なんと救世観音菩薩が聖人の目の前に姿をあらわし「ここから東方、数里のところ、東山のふもとの吉水にいる法然を訪ねよ。そしてその法を聞け」という夢のお告げを受けました。これを受け親鸞聖人は、法然聖人から阿弥陀如来のおはたらきを幾度となく聴聞し、念仏の仏道「南無阿弥陀仏」に出遇われました。その念仏のみ教えは、今までの出家者中心の仏道ではなく在家者中心の仏道であり、たちまち民衆にも受け入れられ信仰が深められていきました。

しかし、それをよく思わなかった他宗派の影響と後鳥羽上皇の政治的権力により法然門下の四名が死罪、法然聖人をはじめその門弟の計八名が流罪に処せられました。親鸞聖人もその一人で、越後(現・新潟県)の国府に配流となりました。これが世にいう「承元の法難」で仏教史上、類をみない弾圧事件でした。ときに法然聖人が七五歳、親鸞聖人が三五歳のときでした。言うまでもありませんが、流罪は私たちの想像を絶する苦勞を強いられます。ましてや親鸞聖人は僧籍(僧侶としての資格)も当時の権力により剥奪されました。しかし、聖人はそのよな環境下でも念仏の仏道を懸命に歩まれ、また自身だけの教えに留まらせることなく多くの人々にその教えを説き、自他共に歩む念仏のみ教えを明らかにされました。そして、当時の貴族仏教から差別されていた農民や漁民の人たちと共に生活した体験は、親鸞聖人自身にも大きな影響を与えました。

その流罪の刑は約五年後の建暦元年(1211年)に順徳天皇による勅命の赦免がされましたが、残念なことに法然聖人との再開を果たすことはできませんでした。その勅免後、親鸞聖人は越後(現在の新潟県)から関東の常陸(現在の茨城県)に向かいそこでも布教活動に専念され、自身も念仏のみ教えの勉強に励まれていきました。その後は京都に戻られ、晩年まで「顕浄土真実教行証文類」の著作に専念されました。

報恩講とは、そのような親鸞聖人のご恩をしのび、そのご苦勞を通じて、阿彌陀如来のお救いをあらためて心に深く味わわせていただく法要です。日本の本山(西本願寺)では、この法要を「御正忌報恩講」とよび、毎朝称えられている「正信偈」も草譜・行譜だけでなく真譜というものが称えられます。この正信偈も親鸞聖人がしたためられたものであり七高僧(龍樹・天親・曇鸞・道綽・善導・源信・源空)の教えと徳が書かれています。

またお念仏のみ教えは、「南無阿彌陀仏」のお名号を通して私たち凡夫が凡夫として救われる教えでもありません。親鸞聖人は各高僧方の教えと自身の経験を通して、阿彌陀如来の智慧と大慈悲が計り知れないおはたらきとして全ての衆生に間違いなくゆきとどいていと示されました。その全ての衆生とは、決して修行に励んだ僧侶に限られるものではなく、男女の性・職業・社会的地位などといった一切の世俗的なものも隔たりとしないことを指します。つまり、私もそしてあなたも阿彌陀如来のお慈悲の中につつまれているのです。

この二〇二〇年のカナダにいなながらも、親鸞聖人の言葉を聴かせていただき、そして聖人自身が出遇った阿彌陀如来のおはたらきである「南無阿彌陀仏」に私自身も出遇えた様々なご縁に感謝すると共に聖人のご恩とご苦勞に尊敬の念を込めて合掌させていただきます。南無阿彌陀仏

ジョアン湯浅

会員登録  
新規／更新

オンライン登録  
新規／更新

## 会員登録のお願い

2019年が過ぎ、また2020年度会員登録のお願いの季節になりました。現在、まだ会員登録をされていない方がおられますが、トロント仏教会の未来は会員の皆様のサポートに依存しており、ここに今年度の会員登録と会費のお支払いをお願いするものです。

トロント仏教会は常に会員特典の向上をめざしておりますが、ここにいくつかの特典を列記します。

1. トロント仏教会の運営に関する投票権の取得、例えば総代表および各会リーダーの選出、予算の決裁その他トロント仏教会の将来に関する重要な事項等。
2. “the Jodo Shinshu values of the Temple” の定期購読
3. 現行会員による無料公証業務
4. CAA Premium-level の割引
5. トロント仏教会特別行事への参加費用の免除あるいは一部減免

**一般会員**とは各年1月1日から12月31日まで有効ですが、トロント仏教会の会員として活動するにあたり、年初において速やかな会員登録をお願いします。会員登録と会費（\$135）の受理後、会員カードを送付します。

**名誉会員**とは77歳以上の方で、2020年度会員登録をされた方、あるいはすでに名誉会員であり毎年名誉会員の継続を表明された方に会員カードを送付します。名誉会員は年会費が免除されますが、ご志納はありがたく拝受させていただきます。